

【日 時】 平成 26 年 3 月 28 日

【訪問先】 大道小学校 富岡正雄校長先生

【概 要】 児童数 305 名 13 学級 各学年 2 学級(2 年生のみ 1 学級)
特別支援学級 2 組 職員数 21 名

【視察報告】



1、校長先生のモットー

『あとひとつの勇氣。もう少しだけ踏み込んで。』近年の教育現場では、「無理しなくていいよ。」という言葉がよく使われる。少しの勇氣をもって一歩踏み出すだけで世界は大きく変わる。

2、英語・国際教育の取り組み

昨年度は国際教室を設置していた。在籍していた子供たちは日常会話は不自由ないが、ドリルやテストなど勉強面での文章の意味を理解するのが困難だった。また国際交流ラウンジと連携しながら、必要な子供たちには個別の日本語指導を行っている。

3、地域のボランティアの協力

地域の方に支援してもらい、学校内の昔資料館をリニューアル。昔の人が農業や漁業に用いた道具を数多く展示しているだけでなく、子供たちと地域との交流の場となっている。その他、地域の方の協力により、池を作ったり、井戸を掘ったりしている。



4、地域との防災の取り組み

防災訓練時に簡易テントの組み立てや発電機の使用などを行っている。防災委員だけでなく、地域の多くの方に体験してもらうことが課題。

5、道徳教育や郷土愛を育む取り組み

授業参観で、全クラスが道徳の授業をする日を設けている。人権に関する授業は各クラス必ず行っている。

6、体力強化や部活動の取り組み

短縄・大縄を重点的に行っている。



7、学校組織の強化・人材育成

学校内での子供たちの安全・安心が一番大事。そのために何を改善しているのかを学校だよりに掲載することで、学校から地域・家庭に積極的に情報を発信するようにしている。

8、その他

地域の支援が強力な一方で、子供たちが地域に出ていく機会があまりない。学校と地域のより強い双方向関係を作り上げるために、子供たちがもっと地域に出ていける環境を整えることが今後の課題。

【所感】

校長先生の「職員は数年で移動するが、地域の方は長年そこに根ざす。」という言葉が印象的だった。そしてその言葉通り、地域に深く根ざしている人たちの強力な支援の下で作った昔資料館・井戸・池などに囲まれながら、元気いっぱい学校生活を送る子供たちの様子がうかがえ、独自の校風を作り上げていると感じた。